

名古屋市立上名古屋小学校 令和6年度努力点だより①

令和7年 3月13日

『努力点目標』

根拠をもった「やってみたい」を見つけよう！

～個人の思いや成長段階に合わせた児童の自己選択・決定を促す導入活動の工夫～

今年度から「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた名古屋市が策定する「学びのコンパス」の実現に向け、低学年（1～2年）は生活科で、中・高学年は（3～6年）は総合的な学習の時間の時間を活用した探求活動を行いました。「全ての子どもは適切な環境と、それを支える仲間・大人に出会うことで、自ら学びを進め、深めていく存在である」という意味の『有能な学び手である』という子ども観を基に、調べてみたいことや、挑戦したい課題を自分で決め、他者と学び合いながらその課題解決をしていく子どもを目指しました。

今年度は初年度ということもあり、「学びのコンパス」の実現に向けて、授業での導入に的を絞りました。単元の最初に、子どもが学習の見通しをもち、根拠をもってやりたいことを見付けることができるよう工夫しながら実践を進めました。また、子どもたちの成長段階に応じた指導法や取り組みを学校全体で考えるために、低学年、中学年、高学年の3つのチームを編成しています。チームごとに活発な意見交流を行いながら、授業研究を進めました。

今年度の各チームの取り組みと来年度に向けた課題について、「最終報告」としてまとめました。

【低学年チームの取り組みの様子】



【1-1の授業の様子】

生活科「もうすぐみんな2年生」の学習では、保育園の子に喜んでもらえる「迎える会」にするためには、どんな内容にしたらいいかを考える活動を行いました。写真を活用し、これまでに他学年にしてもらったことを思い出すことで、保育園の子はどんなことをしてあげたら喜んでくれるのかを考えました。一人一人のこれまでの経験を根拠としたことにより、次の1年生のために、今度は、自分たちがやってあげる番だという気持ちを高めることができました。



【1-2の授業の様子】

生活科「みんなの にこにこ 大きくせん」の学習では、普段の生活を振り返りながら、おうちの人をにこにこにさせる「にこにこ大作戦」の計画をたてる活動を行いました。おうちの人の様子を見てから、自分にできることはないか、自分なりの作戦を決めました。

また、ワークシートを工夫し、どうしてその作戦にしたのか根拠を明確にすることで、「やってみたい」を見付けることができました。



【1-3の授業の様子】

生活科「あきとともだち」の学習では、自分たちが見つけた秋の素材を使って、マラカスやお面といったおもちゃを作る活動を行いました。おもちゃを作る際には、「音が鳴ると楽しいと思うから」「妹と一緒に遊べるから」等、どうしてそのおもちゃを作ろうと思ったのか理由を言葉に表しました。友だちやおうちの人たちにも楽しく遊んでもらえるようにと、一人一人が根拠をもった「作ってみたい」を見つけることができました。



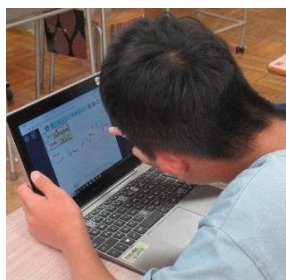
【2-1の授業の様子】

生活科「つくる楽しさはっけん」の学習では、おもちゃのクイズをきっかけに、身近にある物を使ったおもちゃを試したり、作ったりして、自分でおもちゃを「作ってみたい」という意欲を高めることができました。また、選択肢や記述欄を設けたワークシートを活用することで、「難しそうだからこそ挑戦してみたい。」「的当てができて楽しそうだから。」など、根拠を明確にした「やってみたい」を見付けることができました。



【2-2の授業の様子】

生活科「自分はっけん」の学習では、赤ちゃんの重さや身長クイズを通して、自分の生まれたときのことや、どうやって大きくなったかなど、知らないことがたくさんあることに気付くことができました。「自分はかせになろう！」を合言葉に、「お気に入りのもの」「小さい時の思い出」など、テーマに分けて調べたいことを考えました。赤ちゃんから小学1年生までの育つ様子を写真で見ることで、「自分は、どうだったかな？」と関心を高めることができました。



【たんぽぽ組の授業の様子】

総合的な学習の時間「おみせやさんをしよう」では、チラシや看板、店舗の製作、夏野菜の収穫・袋詰め・値札付けの活動を通して、自分のお店を考えました。考えることが難しい児童は、教師の提示した具体例や友達が考えたお店づくりの考えを参考にしながら、できるだけ自分の力で取り組むことを目標に実践しました。1学期は学校教職員、2学期は保護者に野菜を販売する体験を通して、生き生きと取り組む姿が見られ、また、友達と学び合いながらお店屋さんづくりの活動に意欲的に取り組むことができました。



【すみれ組の授業の様子】

生活科・総合的な学習「秋が旬のものを食べよう」では、秋に収穫できる野菜を秋に食べる良さについて考えていくことで、他の季節にもそれぞれ旬のものがあることに気付くことができました。秋に収穫できる野菜は、給食の時間に実際に食すことで、みんなで「おいしい」と共感すること、「このきのこは何？」など食材に興味をもち、実際にタブレットや本を見て確かめたりすることで、それらを食べてみたいという気持ちを高めることができました。

名古屋市立上名古屋小学校 令和6年度努力点だより②

令和7年 3月13日

【中学年チームの取り組みの様子】



【3-1の授業の様子】

総合的な学習の時間「学区の歴史を知ろう」では、「昔からあって変わらないもの」「昔からあって変わったもの」「昔はあって今はないもの」「昔はないが今はあるもの」の4つの観点で今と昔を比べました。交通や生活の様子など、児童が今と昔を多面的に比較できるような資料を横に並べて提示することで、今と昔の様子を捉えやすくさせ、児童の興味・関心を引き付けることができました。

また、どうして今も残っているのか、どうして変化していったのかを考えさせることによって、学区の歴史について、根拠を明確にしながら、調べたいことを選択することができました。



【3-2の授業の様子】

総合的な学習の時間「学区の宝を発表しよう」では、これまでの学習を通して見付けた「学区の宝」について「どうしたいか」を考えました。学区の中で見つけた「すてき」なものや、学区の中にある「歴史」を感じるものについて、その良さを学級全体で共有することで、「〇〇だから□□したい」と、根拠を明確にすることができました。

また、これまでの学習を振り返るクイズを行ったことで、見付けた学区の「すてき」や「歴史」をより想起させるだけでなく、その良さを再確認することで、地域への愛情を高めることにつながりました。



【3-3の授業の様子】

総合的な学習の時間「学区のよさを伝え合おう」では、前単元「学区のよさを発見しよう」に続いて、今後どのように学習を進めていくかを話し合いました。

前単元で明らかになった「上名古屋学区のすてき」を振り返った後に、「上名古屋博士になるためには、どうすればよいか？」と問いかけることで、「分かったことを伝えたい」、「さらに詳しく知りたい」という思いをもつことができました。

その後、友達と考えを共有し、友達の考えのよさを話し合うことで、自分の考えと友達の考えを比較し、自分の考えのよさにも気付くことができ、根拠をもってやりたいことを言えるようになりました。



【4-1の授業の様子】

総合的な学習の時間「防災について考えよう」の学習では、身のまわりに起こりうる自然災害に関心をもち、防災について詳しく調べる活動を行いました。

災害に関する映像を視聴させることで、災害の深刻さを知り、防災への関心を高めることができました。また、各自に災害時を想定した場面を割り当て、自分ならどのような行動を取るかについて考えたり、調べたりすることで、根拠をもって防災に対して備えようとする意欲を高めることができました。



【4-2の授業の様子】

総合的な学習の時間「10才のわたしにできること～環境問題について考えよう～」の学習では、身のまわりの環境問題に関心をもち『今どんな環境問題があるのか』という問題意識をもつ学習活動を行いました。様々な画像を見せることで危機感をもたせ、身近な問題として捉えることができました。その後、図書資料やインターネットを活用して「なぜその問題を調べたいと思ったのか」という根拠を明確にし、これから調べていく課題を自分で決めていくことができました。その結果、環境問題について進んで調べていくことにつながりました。

【高学年チームの取り組みの様子】



【5-1の授業の様子】

和食のすばらしさを伝えることのできる献立を選ぶ学習に取り組みました。まず、「和食」「洋食」「中華」などの写真を提示し、和食のすばらしさ（一汁三菜、栄養バランスがよい）について気付かせ、興味をもたせるようにしました。その後、「主食」「汁物」「主菜」「副菜」の画像から、一汁三菜を意識した献立を考えました。さらに、「季節を意識してキノコ類をたくさん取り入れた」「サンマが旬なので、主菜をサンマにした」など、なぜ、そのような献立を選んだのか、根拠を明確にすることができました。5大栄養素の表や和食の特徴が分かる資料を提示することにより、興味をもって、献立を考えることができました。



【5-2の授業の様子】

世界の食文化について、詳しく知りたい国を選ぶ学習に取り組みました。まず、【世界の食】というテーマのすごろくゲームを行い、様々な国の料理に出会わせ、世界には自分の知らない料理が多くあることや、国ごとの特徴があることに興味をもたせるよう工夫しました。その後、様々な国の食文化を資料として提示し、詳しく知りたい国を選ばせる活動をしました。その際、気になる料理や食の特徴、日本との違いなどに目を向けさせたことで、国を選ぶ上での根拠を明確にすることができました。



【6-1の授業の様子】

修学旅行で訪れる寺社仏閣や体験活動について知りたい場所を選ぶ学習に取り組みました。まず、寺社仏閣や体験活動について知るクイズを出題し、修学旅行で訪れる場所に興味をもたせるよう工夫しました。この活動を通して、気になったことや知りたいことについて、タブレットを活用して自分の考えとして整理しました。その後、整理した考えを友達と交流し、考えを交換することで、知りたい場所についての興味や関心を高めることができました。最終的には、知りたい場所を選ぶにあたって明確な根拠をもつことができるようになりました。

名古屋市立上名古屋小学校 令和6年度努力点だより③

令和7年 3月13日

【高学年チームの取り組みの様子】②の続き



【6-2の授業の様子】

名古屋市内の史跡めぐりで行ってみたいコースを選ぶ学習に取り組みました。市内の史跡について知るクイズを出題し、市内に残る史跡について知ったり、なぜ大切にされているのかを考えたりしながら、史跡を調べることに興味をもたせるよう工夫しました。クイズやウェブサイトの閲覧を通して、気になったことや知りたいこと、その理由について、タブレットPCを活用してまとめることができました。この活動を通して、明確な根拠をもち、自己選択できる力が高まりました。



【6-3の授業の様子】

戦国時代を生きた武将達について、誰を「推し」にするかを決めて、その人物の取り組みや考え方について調べる学習を行いました。まずは、戦国武将についてのクイズを出題し、現代でも大切にされている考え方や、史跡について知ること、子ども達の武将に対する興味を引き出すことができるように工夫しました。また、インターネットのウェブサイトを紹介して、もっと知りたいと思える人を探す活動を取り入れたことで、どうしてその武将について調べようと思ったのか、という根拠を明確にすることができました。

【今年度のまとめと来年度に向けて】

今年度から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた名古屋市が策定する「学びのコンパス」の実現に向け、個人の思いや成長段階に合わせた児童の自己選択・決定を促す導入活動の工夫を研究しました。

実践を行う中で、導入場面でICT機器を活用し、動画や写真などを提示した点や、楽しみながら取り組めるクイズ形式の活動を取り入れた点は、児童の興味や関心を引きつけ、児童の自己選択・決定を促すことに効果的であることが分かりました。また、外部講師の話や実際に見たり聞いたりした経験を想起させたこと、ワークシートに自由記述、選択記述の項目を設定したことは、児童の「やってみたい」ことへの根拠をもたせることにつながることが分かりました。

児童が根拠をもって自己決定・選択するための、教材との出合わせ方や、興味や関心を高めるための方法について様々なことが分かってきた反面、その興味や関心が最後の活動まで継続しているかについては、判断が難しく、現段階での課題と言えます。

そのため、来年度以降は、興味や関心を持続させることができる手立てや、児童が夢中で取り組むことができるような活動を工夫していきたいと思います。